

児童文化財に関する実践研究 I

～「絵本ライブ」と「文化マンス」の活動報告～

A Study on the Practice of Children's Cultural Property

澤田 須賀子、陣内 智子、陣内 敦

I はじめに

保育者養成課程の教員である筆者は、日々この業務にあたる中で、昨今の子どもを取り巻く環境の悪化とそれに対応していかなければならない保育者の役割への重圧を感じているところである。しかし、厳しい現状を学生に伝えるだけでは、保育者に欠かせない豊かな情操や感性を育てることはできない。子どもたち自身は、この情操や感性の多くを児童文化財によって育まれている。この児童文化財には、子どものみならず、保育者、保護者、子どもを支えるすべての人々の心を豊かにし、子育て環境を向上させる力を持っている。この児童文化財の効用を学生と地域の人々に伝えることは、保育者養成課程の教員の使命の一つではないかと考えた。

これまで多くの保育者を育成してきた長崎短期大学が、今後も地域の方々に「保育の楽しさ」を伝え、保育という観点から地域を盛り上げる活動をおこなっていくために保育の情報発信拠点『Hop ステーション』を開設した。この研究の一環として、本実践研究を進めていきたいと考える。

II 研究の目的

本研究は、子ども達が地域の児童文化財に触れながら地域や人を愛する心を育てる場の探求をおこなうことを目的とする。これらの実践研究の報告をおこなう。

III 研究の方法

研究方法としては、地域に伝わる文化財を開拓し、児童文化財として再生したものを子ども達に披露し、子育て支援の実践方法を模索するものである。

- 1 本学のブランディング事業「Hop ステーション」の開設キックオフ・イベント「tupera tupera 亀山達矢さん絵本ライブ」の開催
- 2 佐世保市が主催する第7回させば文化マンス(2018年)、第8回させば文化マンス(2018年)における「音と絵のあるお話し会」と「歌いっぱいの人形劇」の開催

IV 研究の結果

- 1 「tupera tupera 亀山達矢さん 絵本ライブ」の開催

2019年5月26日(日)長崎短期大学カルチャーホールにて“tupera tupera 亀山達矢さん絵本ライブ”を開催した。この企画は、長崎短期大学が開設した保育の情報発信拠点『Hop ステーション』のキックオフ・イベントとなった。

tupera tupera は、2002年から活動を始め、「木がずらり」(2004年)を皮切りに、紙を切って、様々な色と形で彩るユーモアにあふれた絵本を次々に発表している。

2013年、「しろくまのパンツ」(2012年)が「第18回日本絵本賞読者賞」「第2回街の本屋が選んだ絵本大賞 グランプリ」など数々の賞を受賞した。同年、「パンダ銭湯」(2013年)が続けて「第3回街の本屋が選んだ絵本大賞 グランプリ」、2018年には「わくせいキャベジ動物図鑑」(2016年)

が「第23回日本絵本賞大賞」、そして2019年、「第1回やなせたかし文化賞大賞」を受賞している。tupera tuperaの作品は英語やフランス語など世界11言語に翻訳され、世界中で楽しまれている。tupera tuperaは絵本の楽しさを伝えるトークイベントや、ものづくりを一緒に楽しむワークショップなどを全国各地で活動을續けており、「毎日楽しく過ごすことが大切で絵本も子育てもゆるりと楽しんでほしい」という思いがある。今や子どもだけに限らず、保護者や保育者に絶大の人気である tupera tupera のこの思いに筆者は共感し、子どもの世界の不思議さ楽しさ面白さを体験してもらう目的で、「tupera tupera 亀山達矢さん 絵本ライブ」を本学の『Hop ステーション』のキックオフ・イベントとして開催することとした。

この企画を澤田と陣内がおこない、運営の補助として受付・案内・会場誘導・サイン会整理を澤田ゼミの学生が、会場のディスプレイとライブ後のワークショップ『おばけだじょ』を陣内ゼミが担当した。

以下に、当日の開催内容を記す。

時 間	内 容
13:00～	tupera tupera 亀山達矢さん 絵本ライブ 開演 ・絵本ライブ (「あかちゃん」、「いろいろバス」、「うんこしりとり」、「おばけだじょ」、「かぜビューン」、「こわめっこしましょ」、「やさいさん」 「ツペラパラパラ vol. 1 うーんうん」、「ツペラパラパラ vol.2 こーいこい」、「ほうしとったら」、「わくせいキャベジ動物図鑑」) ・鉛筆と紙でできる“うんこ”の作り方 実践 ・学生との読み聞かせセッション 「しろくまのパンツ」 保育学科保育専攻2年 遠藤愛里 (ネズミ役)、亀山氏 (しろくま役) 「パンダ銭湯」 専攻科保育専攻2年 末富春菜 (パンダの子ども役)、亀山氏 (パンダのお父さん役)
14:00	トークセッション ○ tupera tupera 亀山達矢氏 (絵本作家) ○ 新井悦子氏 (長崎短期大学非常勤講師・絵本のお話作家) ○ 合田優子氏 (佐世保市教育委員 学校図書ボランティアネットワーク佐世保運営委員 佐世保市医師会看護専門学校専任教員)
14:30	閉演
14:40～16:00	サイン会 (保育実習室) 澤田ゼミ担当 ※事前に抽選で当選した方のみ ワークショップ「おばけだじょ」 (第2合同講義室) 陣内ゼミ担当

tupera tupera
 亀山達矢さん
 絵本ライブ

開催日時：2019年 5月26日（日）
 開場 12:30 開演 13:00～14:30

開催場所：長崎短期大学（カルチャーホール）
 定員：150名（事前申し込み 応募多数の場合抽選）
 対象：子どもも大人も どなたでも
 ※小学生以下は保護者同伴をお願いします

参加費：大人（500円） 子ども（無料）
 ※高校生以上

申し込み方法：裏面をご覧ください

講師
 tupera tupera
 亀山達矢さん

亀山達矢さんと中川静子さんによる「tupera tupera」は、2002年に出版されたユニットです。絵本ライブストレーションをはじめ、下り、ワークショップ、舞台芸術、アニメーションなど様々な分野で活動する亀山達矢さん、絵本家、作家、子ども向けの絵本作家、児童書作家の亀山達矢さんによる第1回「おばけだじょ」大賞を受賞。「しろくまのパンツ」で第18回日本絵本大賞を受賞、Prix Du Livre Jeunesse Marc le2014グランプリ、「パンダ銭湯」で第3回絵本のまはる絵本大賞を受賞。「おばけだじょ」は、NHK Eテレの「おばけだじょ」で第22回日本絵本大賞を受賞、海外でも様々なメディアで紹介されている。NHK Eテレの「おばけだじょ」のアートディレクションを担当。



絵本ライブのちらし



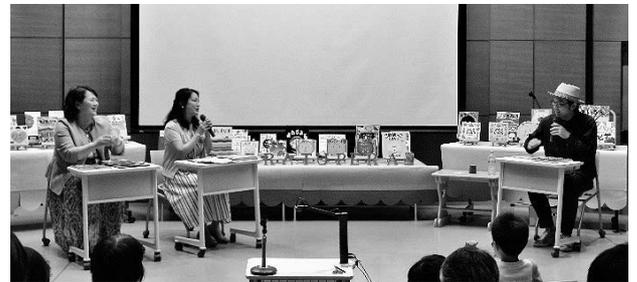
亀山達矢氏と学生のセッション
 「しろくまのパンツ」の語り



亀山達矢氏の「パンダ銭湯」の語り



亀山達矢氏のサイン会（澤田ゼミが運営）



トークセッション
 左から 合田優子氏 新井悦子氏 亀山達矢氏



ワークショップ「おばけだじょ」の制作風景
 （陣内ゼミが運営）



「おばけだじょ」の参考作品
 （陣内ゼミ）



亀山達矢さんと短大スタッフ（澤田ゼミ）



亀山達矢さんと短大スタッフ（陣内ゼミ）

【活動の振り返り】

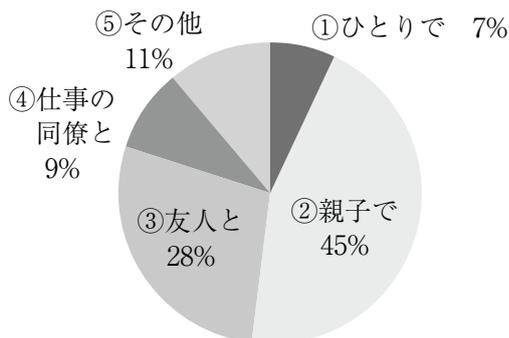
今回のイベントは定員150名のところ、178名の申し込みがあり、当日は152名の来場だった。申し込み者と参加者数に差があった理由の一つとして、当日は佐世保市立の小学校運動会のため、雨天中止であれば参加するという考えで申し込みをしていた家庭があった。参加者152名中109名が高校生以上で、親子や保育者の参加が目立っていた。イベント広報については、チラシを中心に申し込みを募った。下記のアンケート調査でもわかるように、半数の方がチラシを見ての参加であったが、約3割はその他方法でこのイベントの事を知ったという結果になった。内容としては、友人や学校関係者から教えてもらったということが多かった。絵本ライブの内容についてはほとんどの方が満足していたが、小さい子ども連れの方にとっては「ライブ会場の座席が不便だった」、「インタビューの時間が子どもたちには退屈のようだった」という意見もあった。その反面、亀山氏のインタビューでは「普段聞くことのできない絵本作家の想いを知ることができて良かった」など、年代や職種に応じたそれぞれの意見を知ることができた。

絵本の読み語りイベントは様々な場所で開催されているが、実際に絵本作家が自分の絵本を読み語るというイベントは地方では少なく、多くの方から「貴重な経験をさせていただいた」という嬉しい声を聞くことができた。tupera tupera 亀山氏の絵本ライブを通して新しい絵本への興味を示した方も多く、絵本に対する想い、絵本が仕上がるまでの過程や経緯を聞く機会を設けることにより、その想いを受け止め、保護者は家庭で、保育者は保育現場で、学生は実習の場でなど、それぞれの立場で絵本の可能性を広げることができたと考える。

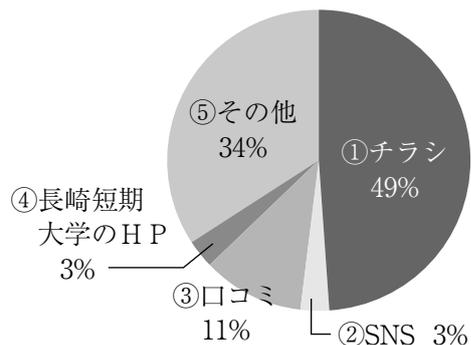
今回のイベントは、ゼミ活動を通して企画運営を学生も参加して行った。イベントまでの準備・当日対応・会場設営等、運営スタッフとしての役割を果たしながら貴重な学びを得ることができた。参加者の感想にもあるように、迎え入れる側の姿勢、おもてなしの心を持った行動ができたことは学生達も自信につながったように思う。

■アンケート集計結果

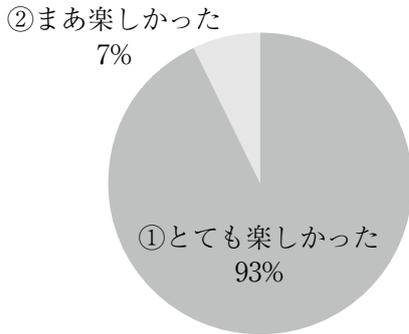
Q1. どなたと来られましたか



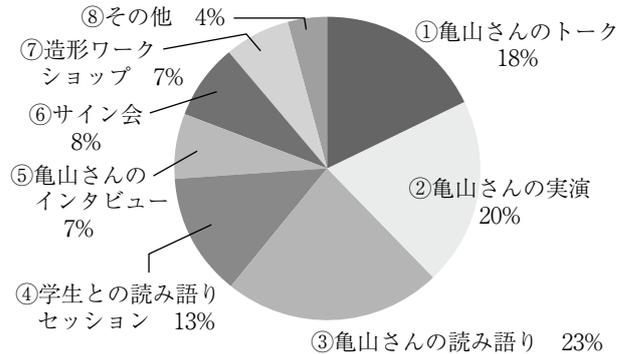
Q2. このイベントをどこでお知りになりましたか



Q 3. 本日の絵本ライブはいかがでしたか



Q 4. 絵本ライブの良かったところはどこでしたか



〈参加者感想〉

- ・ゲスト、内容、ホール内の演出 すべてがとても楽しく心地よかったです。
- ・スクリーンが見にくかった
- ・とっても楽しいイベントでした。子供も良く笑っていました。
- ・学生さんの明るいあいさつや対応に、将来どちらかで活躍されることがあればとても楽しみだなと思いました。
- ・とても楽しかったです。子供は最後の方はきつそうでした。
- ・とても楽しいイベントでした。絵本を買えるコーナーがあるのもっと良かった。購入したい本があったので。
- ・進行もスムーズで楽しませていただきました。時間が足りなかったですね。
- ・凄く楽しかったです。また亀山先生を呼んでほしい。
- ・休憩時間があると助かる。子どもがあきてしまう。
- ・とても楽しかったです。次あればまた参加したいです。
- ・とてもステキなイベントでした。又機会があれば参加したいです。
- ・とてもたのしかった！遅れてしまい2F席でしたが、見やすかったです。ただ、3才の子でトイレの出入りがどうしても出てくるので2F席はみなさんに迷惑かけてつらかったです。
- ・サイン会にはずれて私がかんがなしかったです（笑）
- ・絵本の読み語りは聞かせるものじゃなくて引き込むものなんだと感じました。絵本の世界に浸ることが出来ました。これからの保育に生かしたいです。
- ・どんどん一般の人に講座を開放して欲しいです。
- ・ライブ終了後のトークイベントはいらなかったのでは
- ・まさにライブ!!お客と一体になってつくりあげていくような形式が楽しかった。子どもたちの反応も良かった。
- ・子供は最後に花吹雪で出てきたうんこの形をした紙を拾ってきました。子供はもちろん私も欲しかったのでよくやった!!と子供をほめました。思い出としたアルバムに挟めました。またあれば必ず行きたいと思います。
- ・会場の雰囲気も良く、学生さんもしっかりと上手に絵本を読んでおられ、楽しく聞かせていただきました。
- ・亀山氏の読み語りはエネルギーで若い方は力強いパワーを会場全体に蒔かれて絵本の世界に引き寄せられましたね。楽しかったです！
- ・絵本作家の方の実演・読み語りはなかなかない貴重な時間だったのでとても良かったです!!ぜひまたこのような機会があれば現場にいる保育士さんにもどんどん情報を頂けるとありがたいです!!学生さんも頑張っているなと思いました。
- ・亀山さんはもちろんのこと、大学職員の皆様、学生の皆さんが参加者を「楽しませよう、居心地の良いイベントにしよう」とする熱意とおもてなしの心にあふれた時間に感激しました。このような機会を佐世保

にもたらし下さったことに感謝します。

・学生さんのきちっとしたあいさつがとてもすばらしかったです。

2 第7回させば文化マンス「音と絵のあるお話し会」

実演日；2018年11月10日、11日

実演場所；アルカス佐世保 1階交流スクエア

【事業計画書】

事業の目的・趣旨	佐世保市および近隣子ども達とその保護者ならびに子育て支援に携わる方々を対象に、佐世保の歴史や文化を知り楽しんでもらうことを目的として、佐世保の昔話を題材にした「音と絵のあるお話し会」を開催する。
事業の内容	佐世保の昔話を題材にして、音と絵のある創作劇に作り上げる。 (1) 昔話「一里島」を題材にしたペープサート人形劇 (2) 昔話「相浦川のカップ」を題材にした大きな絵と朗読会
文化マンスの目的と事業の関係	①佐世保にこだわる（演者やテーマを含む佐世保で開催する意義等） 佐世保の昔話を題材にしたお話し会とし、佐世保の歴史や文化を知り楽しんでもらう。 ②人材育成（新たな鑑賞者の創出、実施団体のレベルアップ等） 子育て支援を目的とした本実施団体の表現力を高める。 ③交流と創出（新たな交流や、取組みへのチャレンジ等） 音と絵をお話しの中に盛り込むことによって、子ども達のイメージを広げ、感性を育てる。

【一里島 シナリオ】

配役：山口順子（若戸島）澤田須賀子（松浦島）福島吏織（桂島）山口晴香（金重島）陣内敦（ナレーション）

今別府咲希（大道具・小道具・音響）岩本望緒（大道具・小道具）

役者	セリフ
ナレーション	むかしむかし 長崎は佐世保湾にたくさんの島々があつまとった。寝転がっているような島 向かい合って話をしているような島 と、色々数えて100はあった。この小さな島々といっても 人間よりもずっと大きかったが この100ある島々は昼間のうちはまったく動かなかった。しかし、日も暮れて夜ともなると・・・
松浦島	「起きろ～～～！若戸島！」
若戸島	「え？ わ～松浦島の大將 おはようございます」
ナレーション	島たちは、昼間の間はいくら波にもまれても じっとしておるのだが、夜になると動き出し、散歩に出かけたりするのじゃった。 ※祭りばやしの音※
桂島	「人間たちが酒を飲み 歌ったり踊ったりしておる。楽しそうな音がきこえてくるぞ」
若戸島	「人間たちは楽しそうばい！ ああやって 毎晩酒飲んで太鼓たたいて過ごしたいものじゃ」
桂島	「ほんにな～若戸島の言う通りじゃ」
松浦島	「なあなあ、たまにはわしらも浜まで行って一杯やろうじゃないか～」
桂島	「さすが 松浦島！そりゃーえー考えばい！あーん楽しか音ば毎晩きいとったらじっとされんばい」
金重島	「わたしも連れて行って～」
若戸島	「お～！金重島じゃなかね～！」

桂島	「そがん離れたところで 見とらんで こっちにこ～い」
松浦島	「金重島が一緒なら、今夜は最高じゃ～ じゃんじゃん飲もうじゃないか！」 「ただし！楽しく飲むのは、夜の間だけじゃぞ。お日さんが顔を出す前にここに戻らんと もう二度と動けんようになってしまうからな。お日さんが登るまでだぞ！さあいくぞ～！」 ※島移動※
金重島	「さあいきましょう 若戸島」
若戸島	「まってくれ～ 金重島～」
ナレーション	こうして松浦島を先頭に島たちは浜の飲み屋に向けて出発した。島たちが佐世保湾に入る 頃には人間たちは酒盛りを終え寝静まっていた。そして松浦島を先頭にした島たちは浜に ある飲み屋までくると ぐるりと店をとりかこんだ。
桂島	「おーい おやじさんや！ すまんが酒をのませてくれんかー？」 ※酒屋のおやじさん飲み屋の外に出る※ペープサート
おやじ	「こんばんは 店ばしめたけん また明日きてくれんね」 「あー！」飲み屋のおやじはびっくり驚いた ※島を見ながら
おやじ	「う～ん 酒を飲ませてくれとうわれてもな～」
金重島	「おやじさん おかねはないけんど 酒代のかわりに これを どーぞ」「これでどう？」 ※わかめを出す 「うぎゃ～！すごいわかめのやまじゃないか～」
松浦島	「これだけあれば 2・3年は商売できる 酒はまかせてくれんね！」 ※おやじ 酒をだす※
おやじ	「さ～！いっぱい！飲みんしゃい」
松浦島	「さあ～みんな～さけだ さけを飲もう！宴会のはじまりたい！」
桂島	「酒じゃ！酒じゃ！やっとな願のかなったばい」
金重島	「あ～おいしか～」
若戸島	「こいはうまか！あ～体中にしみわたっていく～」 ※歌って踊って酒盛りは続く※
ナレーション	島たちの酒盛りは続いた 酒は全身に回りみんなぐでんぐでんに酔い そのうちあちこち で飲み比べも始まったようじゃ
若戸島	「金重島どん みてくれんね！」
金重島	「まあすごい 若戸島さんお酒強いのね」 「すごい飲みっぷりだ！さすが松浦島」 「ん～ やっぱり松浦島が一番だわ」
若戸島	「何が一番じゃ 松浦島より 俺のほうが」 ※若戸島は 近くにあった船を持ち上げその中に酒樽の酒をどんどんつぎ足した。
金重島	「やめなさいよ～そんなのにめっこないじゃない」
松浦島	「こらやめるんだ」
若戸島	「松浦島よりおらのほおが～強かところを見せてやる」がぶがぶ飲む ※みんな びっくり顔
若戸島	「どうだ～おらのほうが強かやろ～」 ※若戸島は無理しすぎて、船いっぱいの酒を飲んでしまったのでふらふらになって倒れて しまう。 ※月は沈み東の空が明るくなりはじめた。 背景変更
松浦島	「おーい！東の空が明るくなり始めた さあ早く帰らんと 動けんごとなるばい！」 ※100もある島々は我先にと慌てて泳ぎ始めた
松浦島	「若戸島 おきろ！夜があけるぞ」
桂島	「ああ～だめだしかたない！置いて行こう」

金重島	「よっぱらいなんて 嫌いよ～」
松浦島	「いそげ～夜があけるぞ～！」
若戸島	「まってくれ～おらを置いていかないでくれ～」 「あ～はやくしないと お日様が登ってしまう」 「あー 大変だあ～ あ…お日様がのぼる～」(かちーん 半分固まり) 「あー昇った…」(完全に固まる) 「あー…見栄張って大酒飲むんじゃなかった」
ナレーション	悔やんではみたがもうどうにもならない。若戸島はさせほ湾の出口で小さくなって動けんようになってしまった。そのうち、突然佐世保湾に現れた小さな島を浜の人々は 浜から一里離れたところにあるので 一里島と名づけたそう。そして、佐世保湾の外側に100あった島が一つ減って 九十九島と呼ばれるようになったそうじゃ。



佐世保の浜にて宴会を楽しんでいる島々の姿



船の中に酒樽の酒をどんどん継ぎ足して飲み干す若戸島

【相浦川のカップ シナリオ】

配役：澤田須賀子（お侍）福島吏織（カップの声）山口順子（お侍の声）山口晴香（カップ）

陣内敦（陣爺）今別府咲希（補助）岩本望緒（補助）

陣爺「みなさん、こんにちは。これはこれは、こんなにたくさん。はるばる遠いところからもおいでくださって。ありがとうございます。わしは、この絵を描いた陣爺という絵師でございます。え、歳はいくつかって？ だいたい想像はつくでしょう。こんな恰好しているからの。60歳。え、若いって、あ、り、が、と。お世辞がうまいの。ただし、五百と60歳。びっくりしたろ。この絵を描いたのはちょうど500年前。え、どんなお話かって？ まあまあ、いそがせんでおくれ。ちょっと、座らせてもらうよ。よっこらしよっと。この絵のお話のはのう、『相浦川のカップ』と言うんじゃ。そうここに書いてある。さあ、読んでみるぞ『昔、相浦川には相浦川の悪ガツパと村人から恐れられたカップがおったそう。ある日、原分村の吉田文左衛門というお侍が川向こうの山に狩りに行った帰りのことじゃった。日も暮れてきたので、近道をしようと、飛び石伝いに相浦川を渡っておった。すると、川の底に何か光るものがあるではないか。見ると金の盃であった。喜んで拾おうとしたが、「さてよ、こんな川の中に金の盃が落ちているとは、これこそ、噂の悪ガツパが化けたものに違いない」と思い、伸ばした手をはたと止め、それに切りつけた。すると、「ギャッ」という気味悪い悲鳴、片腕を切り落とされた大きなカップが川の深みに逃げ込みおった。文左衛門は、残っていた片腕を持ち帰ったそう。その夜から、風の音にまじって「腕返せー、腕返せー」というカップの悲しい声が、毎晩聞こえてくる。文左衛門は、かわいそうになり、腕を返してやることにしたんじゃ。「これからは悪いことをしないか」と言うのと、「絶対にしません」と約束したので、川の大岩に、証文を彫りこませ、腕をかえしてやった。それからというもの、相浦川ではカップの悪さがなくなったそう。』どうじゃった？ ちょっと怖かったかの。悪いカップじゃったが、ちいとかわいそうだったな」

お侍「やい、待たれい」

陣爺「やー、びっくりこいたな。お、お、お前さんは、どちら様」

お侍「拙者はこれ」

陣爺「え、え、え～、ひょっとして吉田文左衛門殿？」

お侍「おう、絵師殿、先ほどの話、拙者はずいぶんひどいことをしたようにあったが、実はそうではないのだ」

陣爺「では、どんなことでございますか」

お侍「それは、こうじゃ」「おう、川底に光る金杯、これは、相浦の殿様が、先の宴であまりに踊りに興じられるあまり、うっかり川に落とされたと聞く、あの金杯か？

ううむ、しかしおかしいの。あの後、台風25号が天を通過して大雨を降らせた。それが、流されずにこの場所にとどまるはずがない。ははーん、もしやこれは噂に聞くこちら一帯で悪さをするというカッパの仕業か？ 懲らしめてくれよう」

カッパ「うきゃー」「え、え、え～。今、僕の手を切ろうとしませんでした？ ね、その物騒な刀で、切ろうとしましたよね」「みんなも見たよね。ね、ね、ね～」

お侍「そうじゃ。悪ガッパを成敗せんとした」

カッパ「え～、しかも悪ガッパと決めつけてるし。いや～、ちょっと気分悪いな。ちょっと、ちょっと、何か証拠でも」

お侍「なにをほざくかこの悪カッパ。おぬしの悪行は明々白々」

カッパ「なんか、急に遠山の金さんみたいになってきたけど。いったい、なに！？」

お侍「先ごろ、椎木村の庄屋殿から、相浦川で水遊びをしていた童が何人もカッパに足を引っ張られたという訴えがあった。どうじゃ、観念せい」

カッパ「いやいやいや、あれはね、子どもが深い淵に足をとられそうになったから、引っ張り上げてやったんやぞ」

「いや～、みんなもね、海や川で遊ぶ時は気を付けてね。急に深くなったり冷たくなったりしているところがあるからね。それから、くれぐれもカッパ釣りなんかしちゃあだめだぞう」

お侍「(咳払い) じゃ、これはどう申し開きをする？ 先の大雨のおり、相浦川の岸の杭を引っこ「抜き、堤防を決壊させ、田畑三反を泥の海にしたであろう。おまえのその背中の甲羅、村の者が何人も目にしておる」

カッパ「あ、これか」

お侍「とうとう、尻尾を出したか」

カッパ「あ、尻尾もね。いやいやいや、あれは大変やったんや。おいらは頑張ったんや。あの杭が打たれた場所の向かい側の岸が、あの時今にも崩れそうになっていたんや。土手が壊れていたら、その下には寝たきりの婆ちゃんが。こっちの杭を抜いて水を田んぼに逃がさなきゃ、婆ちゃん死んどった」「みなさんも、災害時にはくれぐれも早めの非難をお願いしますね」

お侍「ううむ、拙者の誤解じゃったか？」「さてよ、さてよ、おぬし、今しがたこの川の底に隠れて、こちらの様子をうかがっておったな。何を企んでおったか？」

カッパ「いえ～いえ～愛宕山に出た月があんまり美しいので眺めていたのでござりまする～」

お侍「変なしゃべり方だな。ますますもって怪しい！」

カッパ「ごめんなさい！ほんの出来心で」「お武家様の腰につけたキューリをねらっていたのです。盃に手を伸ばした瞬間、後ろにまわって、こう」

お侍「そうか。やはり、成敗してくれよう」

カッパ「お許してください。どうか！」

お侍「ゆるさん！」

陣爺「まあまあ、落ち着いて。キューリごときで、あんまりでございます。

それでは、会場のお友達に聞いてみましょう。悪ガッパの手をちょんぎったほうがいいと思うお友達は、チョキ。かわいそうだから、許してあげるお友達は、パー。それでは、一斉にいくよ。せーの カッパの…は、は、は、は～ 許してあげましょう」

お侍「えー、今のズルではござらんか？」

陣爺「まあまあ、よいではございせんか。さっ、それでは、仲直りとまいりましょう。ちょうどよく、月も出ております。月見の宴などいかがでしょう。カッパ殿、お詫びの印に、カッパ音頭でも舞ってくだされ」

カッパ「承知のすけ。さあ、みんないくよ」

♪カッパ音頭♪

陣爺「今度は、皆さんもごいっしょに」

♪カッパ音頭♪

陣爺「おみごとおみごと。カッパ殿」「それでは、このへんで、一本締めとまいりましょう。
 チャチャチャン チャチャチャン チャチャチャンチャン ですぞ。せーの。チャチャチャン チャチャチャン
 チャチャチャンチャン。めでてえなあ」



お侍とカッパの仲裁に入る陣爺



出演者・スタッフとの記念撮影

【活動の振り返り】

グリム童話やイソップ童話、日本の昔話には、生きていく中での大切な教訓が隠されている。子どもたちにそのことを言葉で伝えることも大切だが、絵本や物語、劇等を通して自分で感じとることも一つの方法であり、自分の考えを大切にしながら人生の道を切り開いて欲しいという願いがある。

今回は「音と絵のあるお話し会」をテーマにし、佐世保の昔話「一里島」と「相浦のカッパ」を披露した。地元の昔話には郷土への愛着心を深めるきっかけになると考え、また地名の由来等を知ることで、実際にその場所を訪れてみたいという気持ちが育まれる。佐世保市の歴史を親から子へ、そのまた子どもへと語り伝えられていくことを期待したい。佐世保は地域性で転勤が多い家庭があり、そのような家庭の子ども達にも、幼いころに聞いた佐世保の昔話が心に残り、佐世保を第二のふるさとだと感じてほしいという想いも込めている。

今回の二つの昔話は、時代背景や地域の方言を取り入れている。理由として、その時代の世界観・雰囲気味わって欲しく、子どもたちにとって少々難しい言葉を劇中で使用しているが、親が子へその言葉の意味伝えるという姿も親から子へ伝承していくという形になると考える。親子で昔話に親しみ、この劇をきっかけに佐世保探検に繋がることで、自然と共有した生活、ふるさとの文化を育むことができる子どもたちに育つのではないかと思う。「佐世保発見」「佐世保らしさ」などを見つけながら人々の心を豊かにし、子育て環境を向上させる一助になれたのではないかと感じた。

2 第8回させほ文化マンス「歌いっぱいの人形劇」

実演日：2019年11月10日

実演場所：アルカス佐世保 1階交流スクエア

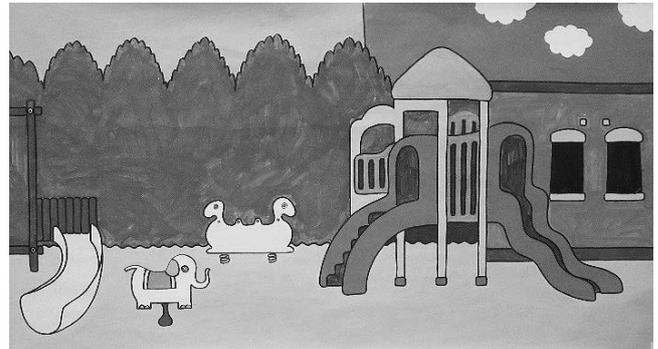
【事業計画書】

<p>事業の目的・趣旨</p>	<p>佐世保市および近隣の子供達とその保護者ならびに子育て支援に携わる方々を対象に、佐世保の文化を知り楽しんでもらうことを目的として、佐世保にゆかりの童話を題材にした「歌いっぱいの人形劇」を開催する。</p>
-----------------	--

事業の内容	佐世保が生んだ詩人・新谷智恵子さんの童謡を題材にした「歌いっぱいの人形劇」 (1) 童謡「ねむれないおおかみ」を題材にした歌劇 (2) 童謡「ぼくのおよめさん」を題材にした歌劇 (3) 童謡「あかいかさ あおいかさ」を題材にした歌劇
文化マンスの目的と事業の関係	①佐世保にこだわる（演者やテーマを含む佐世保で開催する意義等） 佐世保が生んだ詩人・新谷智恵子さんの童謡に親しんでもらう。 ②人材育成（新たな鑑賞者の創出、実施団体のレベルアップ等） 子育て支援を目的とした本実施団体の表現力を高める。 ③交流と創出（新たな交流や、取組みへのチャレンジ等） 童謡をもとにした歌劇によって、子ども達のイメージを広げ、感性を育てる。

配役：福島吏織（しおりちゃん） 山口順子（じゅん君） 山口晴香（はるかちゃん） 澤田須賀子（お母さん）
 陣内智子（おおかみ） 陣内敦（大道具・小道具） 浦中姫花（伴奏） 今別府咲希（伴奏）
 陣内敦・陣内智子（制作物）

脚本・演出（澤田）
ここは なかよし公園 かわいい子どもたちが 遊んでいますね。ちょっと覗いてみましょう。 じゅん君「しおりちゃん、なにしているの？」 しおりちゃん「かぞくごっこ！私はおかあさんなの」 はるかちゃん「私はおねえちゃん！お花を摘んできたの」 しおりちゃん「じゅん君も一緒に遊ぼう！お父さんになって～」 じゅん君「ぼ、ぼくがお父さん♥」 ♪「ぼくのおよめさん」
あんなこがいいな こんなこもいいな ぼくのおよめさん いちばんぼしを つかまえて かみにかざった おんなのこ ポッケのおやつをはんぶん わけてくれるこ かけっこ ぼくより ちょっぴり おそいこ だって ぼく いつも びりだから そんなこがいたら 三りんしゃにのって 百キロのスピードで むかえにいくよ たんぼぼいろの くつ はいて スキップしてくる おんなのこ どろんこだんごの おべんとう



公園



おんなのこ ぼく おんなのこ



おひさま 三りんしゃ
 どろんこおべんとう ビスケット

つくってくれるこ
ぼくの なまえを じょうずに かけるこ
だつて ぼく まだ じが かけない
そんなこがいたら 三りんしゃにのつて
百キロのスピードで
むかえにいくよ

はるかちゃん「あ、雨が降ってきたよ」
しおりちゃん「ほんとだ！私 傘持ってきたよ」
じゅん君「僕も！」
はるかちゃん「私も」
パ！ パ！ パ！ と三人が傘を出したら

♪「あかいかさあおいかさ」

どしゃぶりあめの あめのひは
あかい あかい かさ ぱっ
どろんこだつて へっちゃらさ
わたしのあたまのうえは
おひさまが おひさまが かつ かつ かつ

どしゃぶりあめの あめのひは
あおい あおい かさ ぱっ
かみなりだつて へっちゃらさ
ぼくのあたまのうえは
あおぞらが あおぞらが らん らん らん

じゅん君「あ！虹だ～」
はるかちゃん「ほんとだ～ きれい！」
じゅん君のお母さん「みんな～もうすぐ ご飯の時間ですよ！早く帰ってらっしゃい」
子どもたち「は～い」

子ども部屋

じゅん君「今日も楽しかった～ 明日もどろんこ遊びしたいな」

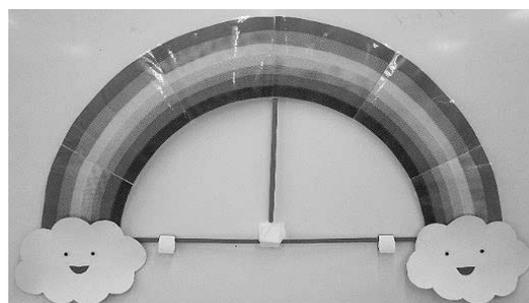
お母さん「じゃあ、明日のために、そろそろ寝ましようか」

じゅん君の「まだ眠たくないよ～ お母さん、何かお話して」

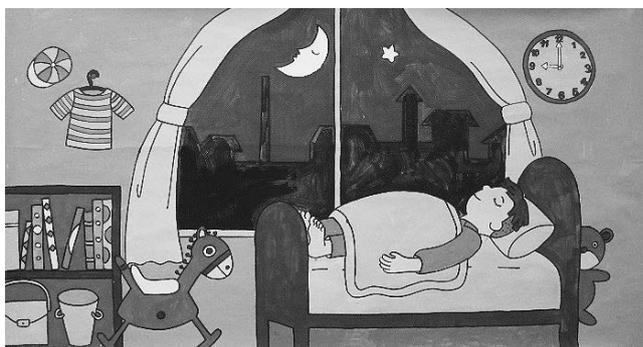
じゅん君のお母さん「そうね～。 あ、そうだ。ねむれないおおかみさんのお話をしましょう」「むか～し、むかし あるところに ねむれないおおかみさんがいました。そのおおかみさんは ……」



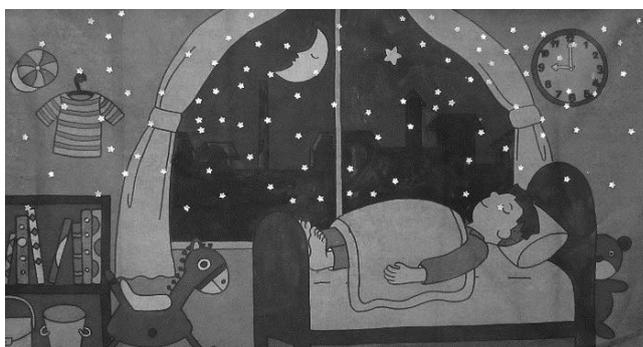
雨が降り出した 公園



虹



子ども部屋



暗くなった 子ども部屋

ピアノスタート

♪「ねむれないおおかみ」

ねむれない おおかみ
ねむれるように おまじない
ひつじの かずを かぞえたよ
ひつじが いっぴき ひつじが にひき
ひつじが さんぴき ひつじが よんひき
それでも おおかみ ねむれない

ねむれない おおかみ
ねむれるように おまじない
よだれが たらり でてきたよ
ひつじを たべたい ひつじを たべたい
ひつじを たべたい ひつじを たべたい
ますます おおかみ ねむれない

ねむれない おおかみ
ねむれないまま よがあげた
おなかは どんどん へるばかり
ひつじは どこだ ひつじは どこだ
ひつじは どこだ ひつじは どこだ
みつけた みつけた ひつじぐも

歌い終わって 子どもが寝る

じゅん君のお母さん「あら、眠ったかしら？じゅん
おやすみ またあしたね」



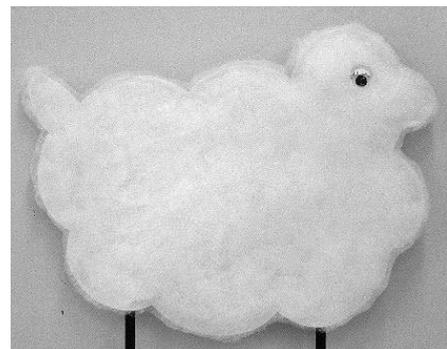
来場者のみなさんにお菓子を配る
ロココ+ジンG煎餅



おおかみの衣装



まわる ひつじ



ひつじぐも

【活動の振り返り】

第8回させば文化マンスでは、新谷智恵子氏の童謡をもとにした歌劇を披露した。新谷氏は子どもたちの日常を色鮮やかな言葉で表現しており、まるで絵本を読んでいるかのような世界観で、その世界観を歌劇で表現し、子どもたちに伝えたいと考え披露した。今回披露した3曲はいずれも、佐世保市内の保育施設で歌われることも多く、子どもたちや保育者のイメージと実際の歌劇がどうマッチしたか気になるところだ。新谷氏の童謡は歌うことでそのイメージが広がり、子どもたちの感性を育てることができる合唱曲である。

自分の目標を持つこと、その目標に向かって努力・挑戦すれば自分の思いは必ず叶う、雨の後にはお日様が人を照らし、そして虹のように自分たちの未来は輝いているということを感じて欲しく、この歌劇は友だち同士の友情、親子愛をテーマにした。この歌劇を見ている人が大切な人に会いたいと思ってくれる時間になって欲しいと願いながら演じた。佐世保市の詩人である新谷氏の色鮮やかな詩は他にも沢山発表されており、機会を見てこれからも紹介し続けて行きたいと考える。

V 今後の展望

最初に述べたように、児童文化財には、子どものみならず、保育者、保護者、子どもを支えるすべての人々の心を豊かにし、子育て環境を向上させる力を持っている。2020年度は“やさしさ”“あたたかさ”に注目し、児童文化財を通じた子育て支援計画を進めていきたいと考えている。

2020年度の取組みとして、佐世保市在住の童話作家 新井悦子氏の絵本ライブを開催したいと考えている。新井氏の絵本は自身の子育て経験から生まれた話が多く、親子・きょうだい愛、家族の絆を大切にしている。子どもの心情を言葉で表現し、繊細な心の動きが手に取るようにわかるため、若い保育者も親の愛を再認識できるという声も聞かれる。子育て中の親も子育てを終えた祖父母世代にもファンが多く、新井氏の愛情あふれる絵本ライブを開催したい。

もう一つの取組みとして第9回させば文化マンスで「おいしい おはなし いただきます」を開催予定である。食というのは人と人を繋ぐものであり、家庭の味、学校の味、思い出の味など、目をつぶればそれぞれに“おいしいおはなし”が頭に浮かぶのではないだろうか。また、食卓を囲むことによって食事はもちろんのこと、会話を食べることができ、会話を交わすことにより相手を知り、思いやりが育まれる。そのように食と児童文化財を繋げることを考えている。

今後も、児童文化財の効用を学生と地域の人々に伝え、子育ての楽しさ、保育の楽しさを実感してもらえるような取り組みにしたいと考える。

(参考文献 引用文献)

1. 楽譜

- 「ぼくのおよめさん」 詩：新谷智恵子 曲：かしわ哲
「あかいかさ あおいかさ」 詩：新谷智恵子 曲：杉山 志保子
「ねむれない おおかみ」 詩：新谷智恵子 曲：湯山 昭

2. 引用文献

TBS 放送 TV アニメ まんが日本昔ばなし 放送日:1989年11月11日(平成01年11月11日)

「一里島」 演出:青野昌 文芸:沖島勲 美術:渡辺由美 作画:吉田利喜